

2022.05.22. 世的な知恵 VS 神の知恵

ヤコブの手紙 3 章 13 節～18 節

JD ファラグ牧師

「ヤコブの手紙 3 章」13 節から始めます。ここにいらっしゃる方で、可能な方は、ご起立下さい。私が読む箇所をつけてきてください。ご無理な方は、座ったままで結構です。ヤコブが聖霊によって書いてます。13 節、

ヤコブ 3

13 あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい柔かな行いを、立派な生き方によって示しなさい。

14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。

15 そのような知恵は上から来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。

16 ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。

17 しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。

18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。

祈りましょう。よろしければ一緒をお願いします。

天のお父様。今日、私たちの前に与えられた御言葉箇所に、本当に本当に感謝します。主よ、この箇所を通して、私たちの人生に何を語ってくださるのか、本当に楽しみにしています。先ほど賛美したように、聞くための耳と、見るための目を持つため、聖霊が必要です。なぜなら、私たちは今日、共に過ごす時間の中で、あなたが私たちに示そうとされているものを、一つとして見逃したくないからです。ですから主よ、あなたがいつもご忠実であられる通り、お語りください。あなたのしもべは聞いております。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日は、神からの知恵と世からの知恵を見極めるにはどうすればいいのかについて、お話ししたいと思います。先ほど祈ったように、この特別な箇所を教えることをとても楽しみにしていました。なぜなら、神はこの箇所を私の人生で何年にもわたって、力強く、深淵な方法で用いてこられたからです。これは、私が数えられないほど何度も私の窮地を救ってくれました。ヤコブは聖霊によって、その違いを理解し見極めるため、一種の雛形を私たちに提供してくれているのだと思います。非常に実用的です。というのも、これはあらゆる決断、あらゆる状況に対応できるスタート位置だからです。そうすることで、これが主によるものかどうかを見極めることができるのです。これは上からの知恵ですか？ なぜそうと分かるのですか？ 神の知恵を知りたいですよね？ なぜなら神の御心を知りたいからです。ここにいる私たちの中で、見極めようとしたことがない人はいないと思います。

「神様、あなたの御心は何ですか。私の人生にあなたの御心を求めます私はあなたの御心にいたいのです。ですから主よ、あなたの御心が何であるかを示してください。」皆さん、心を強くしてくださいよ。神は、皆さん自身が望んでいる以上に、あなたが御心にいることを望んでおられます。そんな風に思ったことはないですか？ 一瞬たりとも考えないでください。天で神が私たちと一緒にチェスゲームをして、私たちに理解させないようにしておられるなどとは。

「お～大変、JD は、もう少しで私の思いを理解するところだった。早く降りて行って、盤を変えなさい。

あれはダメだ。」違います。神は常に、私が御心に適うような環境を整えてくださっています。主は、言わばステップを振り付け、状況を整えてくださいます。もし、そうしなければ、神は、私たちの不従順に加担することになってしまわれるからです。それはあり得ないことで、本当にとんでもないことです。それは、神のご性質ではありません。主は、私たちの人生に常にこの環境を作り出そうとして下さり、私たちが主の御心にいるようにと願っておられるからです。そういう状況があり、皆さんが直面する決断かもしれません。これは、本当に主を求め、祈る決断の1つで、良い事です。神の御心が何であるかを知りたいはずです。あなたは神の御心を求め、神の知恵を求めます。それが、この際立った一節を私が個人的に好きな理由です。毎週どの箇所にも言っていますが、この箇所は特に好きです。こんな風に教えたいと思い、本当に主と共に時間を費やしました。この箇所にあるように、上からの知恵について、自分自身に10の質問を投げかけたいと思います。判断するため、私たちが問い、答えられる質問です。

「これは主なのか？ これは上からの知恵なのか？それとも、今読んだように、この世の知恵なのか？」そこです。1つ目、13節からです。ちなみに、これがスタート位置です。最初の質問：「謙虚さがあるか？」謙虚さです。ヤコブはここで語ります。「知恵がある人は誰か？...実際、質問提起しています。...あなたがたの中で分別のある人は誰？」どうすれば分かるのかは、こうです。あなたの良い生活、行いによって示され、ええ再度、良い行いです。「謙虚な善行は知恵から生じる。」それ覚えておいてください。理解すべき重要点は、ヤコブは、前の2章同様に、人の信仰の有無や証拠を、行いで証明する話をしようとしているではありません。むしろ、その人の信仰の有用性を、その人の行いで問うているのです。この人たちは、キリストにある兄弟姉妹です。問題は、彼らの救いではありません。ここにある問題は、兄弟姉妹の聖化だと言えるかもしれません。ここでの事例は、人の信仰の有用性が、謙虚な善行によって示されるという意味です。そして、この謙虚さは、上から来る知恵から生じる謙虚さです。「箴言 11章2節」、これは非常に重要です。とても基礎的なことなので、聞き逃さないでください。すべては、ここから始まります。謙虚さ・へりくだりです。

箴言 11

2 高ぶりが来れば、辱めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。

皆さん、分かりましたか？ 謙虚さは、知恵のきっかけです。それが真理なら、間違いありませんが、その逆もまた真理ではないですか？ 間違いありません。謙虚によって知恵が与えられるなら、プライドが高ければ、その結果生まれるのは愚かさではないですか？ はい、そうです。つまり、ヤコブがここで言っているのは、「箴言」にあるように言わば上からの知恵の誕生は、謙虚さの胎からなのです。そこが、すべての始まりです。私たちは、良いスタートを切りました。なぜなら、真実をしらしめれば謙虚さだからです。もし、直面している決断や置かれた状況がプライドに満ちていて、謙虚さがなく、柔和さがなければ、それは主からのものではないのは確かです。このように考えてみてください。私たちは、謙虚でなければ、決してキリストに似た者にはなれません。その理由を説明しましょう。なぜなら、イエスが謙虚であられたからです。イエスは、柔和であられたからです。私は不本意ながら、柔和/meekという言葉を使いました。悲しいことに、弱さ/weakと同義にされてしまっているからです。弱さではありません。柔和さは、強さを制御します。制御された力、聖霊のご支配です。ところで、聖霊の実(fruit)ですが、基本的に、今日のこの箇所で見ると重ね合わせられます。それが聖霊の実です。聖霊が、私の内に住まわれ、私をよりイエスに似せるため内在しておられます。私が謙虚であればあるほど、イエスのようになるのです。その謙虚さこそが、知恵をもたらします。知恵は、謙虚さの結果として生まれます。私が良

い決断が出来るときはいつも、自分の心が主の御前に正しくある時です。謙虚さがあって、主の御前にへりくだる。そうすると、知恵が湧いてきます。そういえば、スタッフミーティングでも話したのですが、昔の讃美歌にこういうタイトルのがあります。「神の祝福が降り注ぐ所で」私が思うに、いくつかの言葉は…その讃美歌、聞いたことない？ 残念、素晴らしい讃美歌なのに。神の祝福が降り注ぐ場所にいれば、、、私が何を言いたいか分かりますね？ つまり、神の祝福が降り注ぐ場所から外れてしまう傾向、可能性があるので。どうやってそうなるのか？ 私たちがプライドに満ちているときは、神の祝福が降り注ぐ場所から外れます。神の知恵が降り注ぐ、謙虚さという場所に留まってください。さて、さらに酷くなりますよ。大丈夫ですか？ 質問2つ目です。10個ありますから、この調子でいけば、午後3時までには終わるでしょう。いやいや、もっと早く進みましょう。14節、理に合っていると思います。質問は、「利己的な妬みがあるか？」これは恨み、嫉妬、対抗心という意味で、人がその中で高ぶり、自慢することで証明されます。「真理に逆らって嘘をつく」と訳しているものもあります。そこで質問です。自分が置かれている状況は、自分が利己的なせい？ 妬み、対抗心、嫉妬のせい？ これらは全て同類ですよ。それらと同居するのも止めたほうがいいですよ。一緒に暮らすのは恐ろしいです。妬みや嫉妬は、あなたを内外から食い尽くします。昼食も夕食も、翌朝の朝食も、取られてしまいます。ですから、ヘブル人への手紙の著者は、、、私たちは「ヘブル人への手紙」全てを学んだ通り、御霊によって語ります。

ヘブル 12

15 だれも神の恵みから落ちないように、また、苦い根が生え出て悩ませたり、これによって多くの人が汚されたりしないように、気をつけなさい。

あなたを滅ぼします。ほんのちょっとした嫉妬や羨望、貪欲、対抗心などで……そこから恨み・苦味になるのに、そう時間はかかりません。それが成長していきます。あなたが今直面している決断、あなたが今置かれている状況もそうで、第一にあなたは、このためにそこにいるのですか？ そして次に、何が神の御心、神の知恵かを知りたいですか？ そこに、利己的な思いや妬みがあれば、それは主のものではありません。

3つ目。ほら、早く進むと言ったでしょ。15節、「地上のもの・肉的ではないか？」さて、この15節には、2つのリトマス試験があります。1つは、その状況や決断を、この世のレンズだけで見てしまうことです。世的、地上的な、という訳もあります。次は、その状況や決断を、御霊ではなく肉の欲に訴えているのかどうかを見極めることであり、それは上からのものではなく、悪魔的ですからあります。それは主からのものではありません。それは、肉から出る決断です。それは、御霊ではなく肉に訴えかける決断や状況です。

霊は燃えていても肉は弱いのです。(マタイ 26:41)

私たちは、肉の欲を満たさないよう、御霊の中を歩むように言われています。この概念が伴います。御霊と同期し、御霊に満たされ、御霊の事柄に忙しくしていれば、肉のための時間はありません。私の最高の例えは、、、再度、もっと良いものがあれば、ぜひ教えてください。でも私のはもちろん、食べ物の例えです。ジャンクフードのドライブスルーでお腹がいっぱいだったら、プライムリブを食べる食欲はないでしょう？ それが肉です。肉で満たされているので、デザート＝御霊＝チーズケーキを食べる余地はありません。とにかく、言いたいことはわかりますよね。私は、、、というのは…全部言ってしまったら、酷いですね。でも、言っちゃったから……本当にマズいですね。でももし、御霊で満たされているなら、肉の入

る余地はありません。食欲がないのです。御霊で満腹です。そこで、肉の欲がやって来ます。「ねえねえ～、JD～～！！」私はこうです。「何？もうお腹いっぱいだよ。どうもありがとう。よそへどうぞ。あなたが行く他の場所を教えるよ。ー(笑)ー 彼らを試してみれば？ やってみればいいよ。」

つまり、真の質問は、「これは上からのものなのか、それとも肉的なものなのか？」です。「これは上からのものなのか、それとも世俗的・肉的なものなのか。」carnal(肉欲)という単語は、本当に肉です。よければ食べ物の例えに戻りますが、あなたがお店に行きます。もちろん、チリコンカーンの缶詰があることが前提ですが。carne/カルネって知ってますか？ 肉です。「どうぞ召し上がれ」それはチリです、肉入り豆、肉です。チリコンカーン、carne/カルネ/肉皆さん、二度と食べられませんよ。チリコンカーンは肉ですからね。そういう意味です。肉というのは、肉は、飽くなき欲望がありません？ つまり、ここに問題があるのです。私たちは実際に、肉の味を覚えてしまうのです。それは、つまり.....また食べ物の話をしてすみません。でも、お腹が空いてますので許してください。困りましたね。ですから、お腹を空かせて買い物には行かないことにしています。ついたくさん買ってしまうからです。でもそうすると、お腹がいっぱいだったら、結局何も買えなくなります。とにかく、、私の問題はもう十分ですね。私たちは、その食べ物の味を覚えなければならないと言いますよね。地中海料理。みんながみんな、地中海料理が好きというわけではありません。その味に慣れなければなりません。砂糖についてほんの少しさっと話して、それで止めます！と願います。ー(笑)ー 砂糖や甘いものを食べれば食べるほど、糖分を欲するようになります。知ってましたか？ つまり、生理的要素です。それで、皆さんの多くが私のように、低、あるいはゼロ炭水化物で、、なぜ笑うのですか？ ー(笑)ー まあ、キーワードは「トライ/やってみる」でしたけどね。やってみると、興味深いのは、エネルギー源はタンパク質からなので、それを欲する体内のバルブやスイッチを遮断する感じですが。でもそれを食べると、またバルブが開いて、そこから入って来て、さらに渴望するようになります。肉を摂食するか、御霊を摂食するかということです。御霊を摂食し、肉を飢えさせれば、肉の欲を満たすことはありません。

4 目、16 節です。「秩序の乱れがあるか？」その状況や決断が分裂と混乱に満ちているなら、簡単に見分けがつきます。それは、決して主からのものではありません。神は断じて混乱の作者ではありません。オズワルド・チェンバースの言葉だったのでしょうか。「疑わしい時は、しない。」神が「ダメ」と仰っているのではなく、神は「ゆっくり」と仰っているのかもしれない。神が遅くなられるのは、否定しておられるからではありません。つまり、今はちょっと複雑な状態で、本当にはっきりしません。あなたが信仰を持って、踏み出さないのではありません。つまり、自分の判断や状況のすべてが、海が分れた紅海/Red Sea Clear のようであってほしいです。海が分れた紅海/Red Sea Clear の意味が分かりますか？ これはかなりはっきりしてますよね。イスラエルの民がいて、後ろからエジプト軍が追って来ている。そして、モーセが神のご命令に従って杖を伸ばすと、神は紅海を分けられ、地が乾いています。聞いてください。もし私がイスラエルの民ならこう思います。「これが進むべき道ですよ。」どう思います？ バカな説明方法ですが、要点は分かりますよね。つまり、馬鹿でも間違えないほど大変はっきりしています。

でも、そういうことではなくこの紅海のようにはっきり分らない場合もあります。そのためには信仰が必要です。なぜなら、私たちの肉は、再びそれを見たいと思うのです。結局のところ、見ることは信じることだから。しかし、それは聖書的ではありません。聖書的には、

「信じるが見ることです。」(ヨハネ 20:29 参照)

ですから、信仰によって踏み出さなければならぬ時が来ます。「主よ、私はただ.....それをまだ見てい

ません。でもあなたを信じ、この件に関して、信仰の一步を踏み出します。」しかし、分裂や闘争、混乱や不和など上記の全てに満ちているなら、それは主からのものではありません。もう一步踏み込んで提案します。これは私個人の経験からですが、神は、しばしば起こるのを許されることがあります。

そのようなはっきりしない、混乱と不和の状態を、主は許されます。あなたが主を待ち望み、主を信頼し、主の御前であなたを留める為に他なりません。ですから、聞いてください。今まで何度も、いや、ほとんど毎回、主を待たなかったことを後悔してきました。私は、主を待つて後悔したことは一度もありません。待つて、ただ待つてください。主に整えていただきましょう。ちなみにこれは「箴言3章5-6節」です。「自分の悟りに頼るな。」なぜなら、それらを見れば全て混乱しているからです。自分の心を信頼するのではなく、「心を尽くして主に抛り頼み、あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。」

こんな風に訳した方が原文に正確で好きですが、「主があなたの進む道をまっすぐにされる。」そうすると、その約束の様相が変わってきますよね。主はあなたの道を示されるだけでなく、それをまっすぐにされます。自分の予想は全て無茶苦茶です。主がその状況を整えて下さるからです。道をまっすぐにして下さいます。曲がりくねった道を走っていると、直線路のように、遠くまで見渡せないでしょ？それが私たちへの約束。主が道を真っ直ぐにして下さいます。しかし、待つのです。主に任せましょう。神がなさるより急いではいけません。もし、あなたが神より先に急ぐなら、あなたには、何も分かりません。焦りが来ます。「何のことかわからないよ、兄弟。」私たちは、どれだけ焦りますか。特にこの件に関して、「イザヤ書30章18節」を考えます。「それゆえ【主】は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、」お～待つのですか。私は待つのが嫌です。あなたは待つしかないのです。待つのです。「詩篇27篇13-14節」ダビデはこう言っています。これは、緩い言い換えですが、私なら、ほとんど諦めて、タオルを投げたでしょう。主への信頼がなければ、心を失い、完全にあきらめていたでしょう。そして彼は自分に語り始めるのです。これは独り言とは違います。自分への語りかけです。違いがあるんです。言葉遊びではありません。それは、自分自身を座らせて、自分に言い聞かせるのです。「座れ、小僧！話がある。待ちなさい。心を強くし、主を待ち望め。主を待ち望めと言っているのだ。」

「詩篇42篇と43篇」は、1つの詩だという説もあります。ダビデは同じことをしています。自分自身に語っているのです。自分に言います。「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。神を待ち望め。」彼は二度、自分に言い聞かせるように言います。私たちは何度も聞く必要があると思うことがありますね。待つのです。主を待ちなさい。この言葉、よく言いますよね。特に親として、子どもによく言います。「待ちなさい。そのうちに分かるよ。」「嫌だ、今見たい。待てない。」「欲しいものを、欲しいときに、今すぐ欲しい！」5歳児みたいでしょ？「今すぐに欲しい！」せっかちなんです。待ちたくないのです。神は時に、このような秩序の乱れを許されるので、私たちは待たざるを得ないのです。しかし、もし不和や分裂や混乱があれば、それは、上からの知恵ではありません。5つ目です。17節、この一節にいくつもあります。ここでヤコブは「世的な知恵とはこういうものだ。」という雛形を示した後、角を曲がり、逆に言います。「上からの知恵とはこういうことだ」と。質問は、「動機が清いのか？」です。これが物語るのは、心の中に、純粋な動機があるのと計略があるのとは、対照的だという事です。私たちは時に、間違った心で正しいことをしたり、状況や決断に関して間違った動機でしたりしますよね。正しいことを、間違った方法と間違った心でしているのです。そして、神はその心を知っておられます。神は、心の動機を知っておられます。私たちは皆、自分の心とその動機を探ってくださいよう、主にお問い合わせするのがよいでしょう。私たちは、他人の心の動機を判断で

きません。人間は外見しか見ませんが、神は、心を見られます。これをするのに、何が私の動機になっているのか？ この中で、自分の動機は何なのか。その動機は純粋なのか。私の動機は清いのか？ 私の心は正しいのか？

6つ目。「平安で愛があるか？」"平和的"と表現している訳もあります。私たちの今の時代にはあまり使われない言葉ですね。しかし、それをすることで平安があり、そこから平安で愛する結果が生じます。これは、私が神の知恵と神の御心を見極めるためのテーブルの4本脚の内の1本と呼ぶものです。

1) 神の御言葉、2) 神の平安、3) 神の摂理、4) 神の確信。

それを説明します。何よりもまず、神の御言葉に従って、神の御言葉と一致していなければなりません。神の御言葉に反するならば、100%間違いなく、神の御心でないのが分かります。聖書的でなければならぬのです。神の御言葉と一致せねばなりません。

第二に、神の平安です。さて、この平安は、イエスが仰った、

「わたしが与える平安は、この世が与えるようなものではありません。」(ヨハネ 14:27)

これは超自然的な平安です。使徒パウロがそのことを書いています。「ピリピ人への手紙の4章6-7節」、実際には、8節までですが。しかし「箴言3章5-6節」同様条件付きの約束で、前提条件が3つあります。ですから「箴言3章5-6節」で、3つの前提条件を挙げています。

- 1) 心を尽くして主に拠り頼め。
- 2) 自分の悟りに頼るな。
- 3) あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。

「ピリピ人への手紙4章」に行くと、3つの前提条件があることがわかります。

- 1) 何も思い煩わないで、
- 2) あらゆる場合に、神に感謝をし、
- 3) あらゆることを神に祈る。

すると、神の平安、神からの平和が、私たちの主キリスト・イエスにあって、あなたがたの心と思いを守ってくださいます。それが神の平安です。その平安が表します。私と聖霊の間で、

「これは良いことです。これが道です。その中を歩みなさい。」「こっちは.....違います。」次にその話をしますが、この状況が起こる時生じる平安ではありません。事実私たちは、自分の人生の逆境をもとに、神の御心を誤解すると、大きな間違いを犯すと思います。あなたは、人生の試練の真ただ中で神の御心の真ただ中にいるのです。「これは神の御心ではないはず」だと逆境を同一視しないでください。実はある意味、その逆が真理だと言えます。つまり、順風満帆の時、「すごい！神の御心大好き〜。」ちょっと待ってください。イエスが弟子たちを、ガリラヤ湖の沖合へと嵐に遭い、彼らが死ぬと思うような危険な嵐が来ると分かっておられながら、舟に乗せられた時はどうですか。いいえ、彼らは分かっています。彼らはこれで終わりだ、これで終わるんだと思います。イエスは大急ぎですよ、、物語にはその詳細がありますが、即、弟子たちを舟に乗せて、向こう岸に連れて行かれるのです。(マルコ 6:45 参照)

主は仰います。「向こう岸で会おう。」「一緒に行かれないのですか？」はい、行きません。「私たちを舟で、ガリラヤ湖に送り、嵐に遭わせるおつもりですか？」はい、そうです。「分かってそうなさるのですか？」そうです。待ってください。神の御心とは、嵐のない順風満帆な航海と同義だと思っていました。なぜなら、私たちは嵐や逆境を神がこう仰っていると考えますから。「あなたはわたしの御心から外れている。」ああ、これは「伝道者の書7章14節」です。言い換えますと、もう一つの人生の聖句、神が長年に渡っ

て私の人生で力強く用いて下さったものです。御霊によってソロモンが書いています。

「順境の日には幸いを味わい... (その間はね) ... (しかし) 逆境の日にはよく考えよ。」”日には”とは言ってほしくありません。”もしもその日、たまたまなら”であってほしかったです。違います。逆境に立たされた”時”、立ち止まって考えよ。神は一方を許されると同時に他方をも許されることを知りなさい。原文での意味は、神は、逆境と同時に繁栄をもたらされます。そうすれば人間が自分の将来については何も分からず、神に目を向ける。神が逆境をもたらされたということですか？ そうです。神は、私たちを方向転換させるため逆境をもたらされることもあります。神は、私たちを守るため逆境をもたらされることもあります。私は確信します。イエスが急いで弟子たちを舟に乗せ、向こう岸に行かせられた理由の1つは、ちなみに、ネタバレですが、彼らは向こう岸に辿り着きましたよ。彼らは、自分の人生の嵐の真っ只中において、自分の人生にとっての神の御心の真っ只中にいるのです。逆境はよく、神の御心に反することよりも、神の御心に適うかどうかのテストになることがあります。ですから私は確信します。神は、弟子たちを舟に乗せ、向こう岸に行かせなかったら、起こったであろうもっと大きな試練から、弟子たちを守ろうとされたのです。そう思う理由は、弟子たちは、その日、一人の男の子の母親が作ったお弁当で、大勢の人々、何千人もの人々を養うという驚異の奇跡を目撃し、その一員となりました。弟子たちはその一員でした。誰かがかごに手を入れるたびに、パンが増え、魚が増えました。(マルコ 6:41~44 参照) しかも、余ったとまで記されています。(ルカ 9:17 参照)

では聞いてください。もし私が弟子の一人なら、こう思うでしょう。「わお～ここに教会をたてましょうよ。」でもイエスが仰います。「ダメ、向こう岸に行こう。」「嫌です。なぜ？ どうしてですか？」「ダメです！！」主は弟子たちを、そこに留まれば生じる高ぶりという試練から守っておられるのです。

「わたしはあなたがたをこっちの試練に送ります。より大きな試練から守るためです。」ですから、しばしば、神は私たちをその嵐の中に送り込まれます。主は、私たちを自分自身から、私たち自身の高ぶりから守って下さっているのです。ですから、それが神の平安です。それは.....繰り返しますが、人間の理解を超えた超自然的な平安です。ですから自然に、このことが起こるのを見て、最後に私がここで得るのは平安です。「今起きていることを見てください。平安ですって？ 冗談でしょう？ 平安ではなく、混乱に陥っているじゃないですか。」いいえ、この平安は、あなたの世界の物事が崩壊していても、あなたが人生の試練の中においても、あなたはまだ平安を持てるという意味です。なぜなら、イエスが与えてくださる平安は、あなたの人生の状況によって決まるものではないからです。ちなみにそれが happenstance/偶然の出来事といい、そこから、happy/幸せという単語が生まれました。私は物事がうまく行っていると幸せなんです。皆さん私同様なら、1日24時間のうち、1分ほどは幸せかもしれませんね。というのも、私の幸せが、物事が”素ン晴らしく”行くのが前提なら、それは生き方になりません。ヨーヨーのように、常に浮き沈みします。この平安は、超自然的平安で、「お～これは聖霊だ。私の霊とともに証ししておられる超自然的な平安。」それが2番目です。ですから皆さん、神の御言葉と神の平安が分かりましたね。ちなみに、これらはすべて、互いに協調して機能します。いずれも単独ではありません。つまり、何度も、、自分自身のことを話します。特定の誰かを見ないように注意しながら、自分自身のことを話します。何度、決断したことでしょう。「よし、私はこれに平安を感じるぞ。」今までで一番悲惨な出来事でした。孤立したものだったからです。テーブルを一本の脚で立たせようとしたことがありますか？ すぐに倒れます。互いが協調せねばなりません。神の御言葉、神の平安があって、そして神の摂理があるのです。これは何か？ これは、、、そうこんな風に言います。「神が1つ扉を開けてくださる。」「神よ、1つ扉を

開けて下さい。」OK。もし主が2つ扉を開けくださったら？ どうしますか？ あ、もっと良いのがあります。主が扉を開けず、代わりにあっちの窓を開けられるとしたら、どうでしょう？ これが神の摂理であり、繰り返しますが、神が状況を奏でて整えておられ、主は摂理に適ったステップを振り付け、そしてこの扉を開けられたり、またはこの扉を閉じられたり。決まり文句なのは分かっていますが、「神はこの扉を閉めずに別の扉を開かれることはあられません。」聞いてください。私は、神に扉を閉めてもらい、10個の鍵でロックし、鍵を奈落の底、地獄の底に投げ捨て、二度と見れない様にして頂きました。それって分かり易いですね。そっちに行ってはいけないのです。でも、こんな風ではありませんでした。

「こっちは閉めて鍵をかけ捨てたけど、あちは開けましたよ。」どこですか？神が、私に示して下さいなのです。それが神の摂理です。そして再度、神の平安と神の御言葉、次の4番の確信と連動します。今、この事は、、あぁ～では、この仕組みをよりよく理解するため、こういう描写をしましょう。

あなたは、聖書的であり、神の御言葉に反していないと分かっている。あなたには、人の理解を超えた平安がある。あなたには、それをする事で平安がある。神は扉を開け、閉じて鍵をかけ、状況を摂理的に編成して下さり、私に示され、導き、私の道をまっすぐにして下さる。そして、確信が来るのです。

こんな感じで来ます。キリストにある、あの兄弟や姉妹が、あなたに適切な言葉を話すかもしれません。ちなみに、彼らは何も知りません。ですから、彼らの手柄ではありません。神にすべてのご栄光があらわれます。時に、私と皆さんとの間よりも、そういうところで、皆さん同士で、もっと多くのミニストリーが行われます。教会に行った後、また行く前に、親睦を深めていると、突然、誰かが.....。何か言ったりします。聖書の一節だけかもしれませんが、それは、あなたがそれを聞いて確信する必要があると主が知っておられるからです。「お～、それは、、なんと、ほ～～！！」地元ですから、「ほ～～！！」それって、やるっきゃないじゃん！ それって神の御言葉、神の平安、神の摂理、そして今、神からの確信が来た。神の知恵と神の御心の4本脚です。次に進みます。

7つ目。「思いやりがあるか？」原文の considerate (思いやりのある) は、gentle/穏やか、kind/優しい、tolerant/我慢強いとも訳せます。これについてお話しします。これは正に、すべての原点「謙虚さ」に立ち返ることです。なぜなら、それが御霊の実ではないでしょうか？ 優しさ、柔和、親切。あなたは思いやりがあります。あなたは思いやりがある。話が逸れるつもりはありませんが、たぶんちょっと言う必要があります。さっと手短かに。こんにちの人々には思いやりがありませんよね。皆さんではありません。もちろん、皆さんは(思いやりがあります)私は他の人のことを言ってるんです。本当に思いやりがありません。あなたがある状況にいて、決断をする時に、あなたは、穏やかに、愛情を込め、優しく考えていますか？ そして、これが次の8つ目に繋がります。

8つ目、「従順なのか？」reasonable/わきまえた と訳するのもあります。それってわきまえていますね？可愛子ぶってませんが、理不尽なのは？ 私はわきまえていますか？ つまり、従順で筋が通っているとは、理不尽、頑固、意固地の対極です。そして、それら全てが高ぶりに帰結します。なぜなら、人の高ぶりに根ざしているのは、屈したり曲げる気がない事だからです。私たちはこう言います。「嫌なら結構。」オーケー。つまり、私たちは自分のやり方を確立しています。私たちはうなじが固く、頑固なんです。もう一度言いますが、皆さんことを話しているわけではありません。他の人について話しています。私たちは、頑固です。意固地で、屈しません。これが夫婦関係で一日に何千回も繰り返されるのでは？ 皆さん、そう「エペソ人への手紙5章22節」好きですよ？ 冷蔵庫や壁紙にも貼りますね。妻の聖書やデボーションに入れておいたりします。22節の前に何が来るか知ってますか？ 意味深ですが、21節

です。「エペソ人への手紙 5 章 21 節」に何が書いてあるか知っていますか？

「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。」(エペソ 5:21)

もしかしたら、この件に関して、さっと対処する必要がありますね。あなたは結婚生活で対立し、口論になり、自分の立場を譲らない。「絶対に謝らないぞ！」それは.....(笑)ここは気をつけたいところです。

「あっちが私に謝るべきだ！」どうなるか分かりますよね？ その中で次の章が書けますよ。無視する。時には何日も。それが、不本意な頑固さであり、自分の正しさへの固執です。さて、ここで問題です。あなたが間違っています。「違う。不当な扱いを受けたんだ！」違う違う違う違う。あなたが不当な扱いを受けたのかではなく、あなたが不当な扱いをしたのか？ です。これで様相が一変しますよね？「いやあっちが間違っているんだ。」お～あなたは本当に正しいです。夫の皆さん、あなたが奥さんのところに行き、英語の中で最も難しい言葉を奥さんに言ったらどうでしょう？ 3つの単語です。どれか分かりますよね？「私が、ま、ま、間違っていた。」I was wrong —(笑)—「ごめんなさい。」I am sorry. 「許してほしいんだ。」Please forgive me. よければ続けられますよ。

霊的なリーダーになりたいですか？ あなたが霊的なリーダーになって先に謙虚になり、自分が間違っていたことを認めたらどうでしょうか？ そうだから。どんな反応が返ってくるか分かるでしょう。我慢してください。こんな目で見られます。(目を細める)

「あなたは誰？ 私の夫に何をしたの？ そんな筈ない。何が欲しいの？」夫が花を持って帰ってくるような感じですね。「あなた何をしたの？ 何をしたのよ。なぜこんなことするの？」あなたが謙虚になり、屈服し、道理をわきまえ、服従すると、起こるのは、お～！ それが主です。

9 回目、「慈悲深いか？」慈しみと良い実に満ち溢れるとは、人に対して慈悲深くあり、人を裁いたり批判したりしません。それだけでなく、以前にもお話したことなので、さらに踏み込んでみたいと思います。それは、私たち自身が自分もそうされたいと思う方法で慈悲深くなることです。「ルカの福音書」で、イエスがこのように仰います。あなたが他人を憐れむときに量る尺度が、量り返される尺度になります。(ルカ 6:38 参照)

あなたが慈悲を与え、慈悲を示す。これはお金ではありませんよ。殆どのテレビ伝道者は、悲しいかな、それを完全に損ない、台無しにしてしまっています。これは、慈悲深く、互いにどう接するかの文脈です。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。」(ルカ 6:38)

そして出ている伝道師が言うのです。「神が誰かの心に刻まれましたよ～。」そんな話ではありません。慈悲について語られているのです。ですから、私はあなたに慈悲深くあります。神は仰います。

「OK。では、その尺度で量りましょう。実際に詰め込んで、揺って入れて、盛り上げたりして、それがあなたのところに戻ってくるのです。」そういう仕組みです。慈悲深くある。私が置かれているこの状況、私が直面しているこの決断、私の霊は批判的な霊なのか、それとも慈悲深い霊なのか？ 私は慈悲深いのか、それとも批判的なのか？ 私は慈悲深いのか、それとも裁いているのか？ こんな風に言わせてください。皆さんも私も、慈悲深い側に立てば決して間違いはありません。絶対に間違いありません。そして最後に 10 回目、これで終わりです。「公平なのか？」さて、この最後の 1 つは、不誠実さや偽善のない、揺るぎない公平さを物語ります。同じことを別の方法で言います。これが誠意というものです。これが公平です。これは決して不誠実ではありません。ちなみに、間違いなく、人は誠意がないのを見抜きます。最高の俳優や女優になることはできても、これはごまかしがききません。彼らは、遠いところから匂いを嗅ぎつけます。「いや、これは誠意がある。これは本物だ。偽善がない。」偽善という言葉は、古代

ギリシャ語で仮面をつけた役者の描写に使われた言葉からきているのはご存知でしょう。劇場で、番組があって、役者が仮面をつけた役者がいます。仮面で中身を隠しています。役者はその仮面をつけ、笑顔の仮面なのに中身は笑っていません。それが偽善的で、二枚舌で、不誠実です。自分をおきながら、現実とは全く違います。外見的には偽善、不誠実です。18節に注目してください。ヤコブは、言い方はマズいかもしれませんが、本当にポイントを突いていて、「義の実を結ばせる種は、平和を作る人々によって平和のうちに蒔かれる」と語ります。平和をつくる者は幸いです。それが上からの知恵なのです。まず清く、次に平和を愛する平和的なのです。ですからヤコブは、言わば始めた方法で終わります。そして、平和の種をまく、平和をつくる人々がいると語ります。では、ここで質問です。私の状況は、この判断、平和をつくる者になろうと思って行っているのでしょうか？ 誠実に、つまり誠実に誠心誠意、私の心からの願いであり、偏見も偽善も不誠実もない。それが本物です。神はそれを尊重され、祝福くださいます。これらを全部まとめて雛形に、言わばスタート位置に戻しましょう。あなたが今置かれている状況が何であれ、ヤコブ3章13-18節のスタート位置に通して、最後に何が出てくるかを見るのです。皆さんが私同様なら、多くの方がそうだと思いますが、13節以降、読み進められませんでした。主からのものじゃない。もうバツサリです。「上からの知恵」の17節どころではありません。まず清く、次に平和で、優しく、協調性があり、憐れみと良い実で満ち、偏見がなく、偽善もなく、義の実を結ばせる。私はそこまで行けず、まだ地上の、霊的でない、世的な、肉体的な、チリコンカーン、悪魔的なものから抜け出せません。ボロボロです。それは神の御心ではありません。それは神の知恵ではありません。ただ神からではないのです。では、ヤコブの最終目標は何か。そして私たちにとっての教訓は何か。私たちの教訓は、このような状況・事情下で、神の御心を見極めたいのです。神の知恵、神の御心を。では私は神と共に過ごし、主がこれらの事柄について私の心を調べてくださるようにしなければなりません。

「主よ、あなたは私の心を知っておられます。私は自分の心さえも分かりません。ところで木曜日の夜の礼拝で、エレミヤ書の学びをしている人たち、お～、あれはエレミヤを通しての学びではなく、エレミヤを通しての試練です。つまり、わお～です。きつくて厳しい書です。つまり、私たちはエレミヤと一緒にずっと泣いています。でも、これから入っていく箇所が、、、あ～何章か忘れましたが、もうすぐです。

「人の心は何よりもねじ曲がっている。誰がそれを、知り尽くすことができるだろうか。」(エレミヤ 17:9)

修復不可能。だから、誰かがこう言うのを聞くと「お～、自分の心に従いなさい。」「だめ！自分の心に従ってはいけない。」—(笑)—

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。」(箴言 3:5)

なぜなら、御霊によってエレミヤが語るのが「人の心は何よりもねじ曲がっている。」それがどういう意味が分かりますね？ 私たちの心の中は、実際に自分自身に嘘をつき、自分自身の嘘を信じる可能性があります。自己欺瞞というやつです。私たちは自分の心の中で欺かれるのです。だからこそ、主が私たちの心を探ってくださいよう【していただく】のです。最後に一節。章と節は思いつきませんが、使徒パウロが語ります。

「神の平和があなた方の心を支配するように」(コロサイ 3:15)

原文の rule/支配という単語は、英語の umpire/審判の語源なんです。で、皆さん、あれを知っていますよね？ umpire/審判が、ファウルかフェアか、ストライクかどうかを判断します。それが umpire/審判ですよね？ それを神の平和がなさるのです。それを私たちの心の扉で確認します。神の平和が私た

ちの心を支配なさる。パウロは言います。

「すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。」(II コリント 10:5)

ただ入れるだけじゃダメなんです。主よ、私の心を調べてください。何かがそこに住み着いてしまって、私の心の中に居座り続けているからです。そこに住み着き、居心地が良くなっていて、出て行く必要があります。主は恵み深く、優しいお方ですね。彼はそこに指を置いて示され、仰います。

「あなたは、あれが分かりますか？ 出て行かねばなりません。」そして主が、心の手術をして下さり、あなたの心の中にある邪魔なものを取り除いてくださいます。あなたの心の障害になるからです。

主よ、私の心をお調べください。(詩篇 139:23 参照) あなたを聞き、あなたを知り、あなたを愛することから私を妨げるものが、少しでもないかどうか探ってください。カポノは上がってきてください。ご起立ください。祈りで締めくくります。

天のお父様。本当に感謝します。お～私たちはあなたを愛しています。あなたの御言葉を愛しています。あなたの御言葉は、正に生きておられ、非常に生き活きとし、非常に当てはまり、非常に適確です。

主よ、今私たちが学んだこの箇所を、主よ、どうかそのまま置きざりにして、一日を過ごさせないでください。主よ、あなたが私たちに携えさせたいものがここにあります。これについて、聖霊が私たちの心に働きかけてくださいますように。

主よ、ここにいる私たちの中で、あなたの御心に従いたくない者はいません。あなたを不快にさせたりあなたを傷つけたりしたい人は、ここに一人もいないと思います。

主よ、ありがとうございます。あなたの御言葉に感謝します。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7